

かなりやぐみだより



公園や園の周りの落ち葉が赤や黄、オレンジへと姿を変え、ますます深まる秋を感じています。日中の暖かい陽射しを浴びながら、子ども達は元気いっぱい鬼ごっこをしたり縄跳びをしたりして楽しんでいきます。



秋の自然は宝物がいっぱい！

津田公園に出かけると、色とりどりの落ち葉や木の実・ドングリなどがたくさん落ちていました。「ぼうしつきのドングリやぁ！！」「いろんな色の落ち葉があるで！恐竜の足跡みたいなのもある！」と秋の自然物に目を輝かせている子どもたちは、手作りのドングリ入れや袋にいっぱい集めて楽しんでいました。持ち帰った自然物を使った製作では、自由にどんぐりや木の実を枝に取り付け、自分だけの壁飾りを作りました。出来上がった壁飾りを見て、子ども達は満足気に「これ私が作ったやつやで！」「どんぐりたくさんつけたやつ凄いやろ！」と友達と伝えあっていました。自然と関わったり、遊びに取り入ったりする楽しさを味わうことができるようにしていきたいです。



音の絵本を作ろう♪

音をオノマトペで表すことに興味を持ったかなりやぐみの子ども達は、生活の中でどんな音が聞こえるかに注目して過ごしています。「先生トイレのドア『ガチャガチャ』ってなる！こっち来て！」と音を見つけると興奮気味に教えてくれる子や、「たしか手を洗う時、『ジャー』って音がしてた気がするから確かめてくる！」と自分の経験から思い出して音を探す子など意欲的に音探しに取り組むようになりました。また、「ご飯中にも音ってあるのかな？」と問いかけると、静かに給食を食べながら、「あ！ブロッコリー食べると『ガリガリ』いうで」「お茶飲む時にも『ゴクゴク』って聞こえるから喉のところに耳あててみて！」といった気づかないような音にも気がつくようになりました。帰りの集まりでは一日の中で見つけた音を写真や動画を通して振り返り、それを絵本のようにまとめます。たくさんのオノマトペを見つけ、かなりやぐみだけの「おとさがし絵本」のページがだんだんと増えていきます。最近では、部屋で見つけた音だけでなく、家からも音を見つけて紙に書いて持ってきてくれるようになり、子どもたちの中で音に対する意識が高まっているなど感じるようになりました。子ども達から出てくるオノマトペの中にはおもしろい表現のものもたくさんあるので、ぜひ「どんな音がする？」と家の中や帰り道での音と一緒に耳を澄ましてみてくださいね。

